

昔おきなわ風景探索

沖縄県公文書館所蔵の写真と空中写真

1945年6月13日



地図を表示

(写真番号：111-13-3 を画像処理)

資料目上一見半鐘准・V

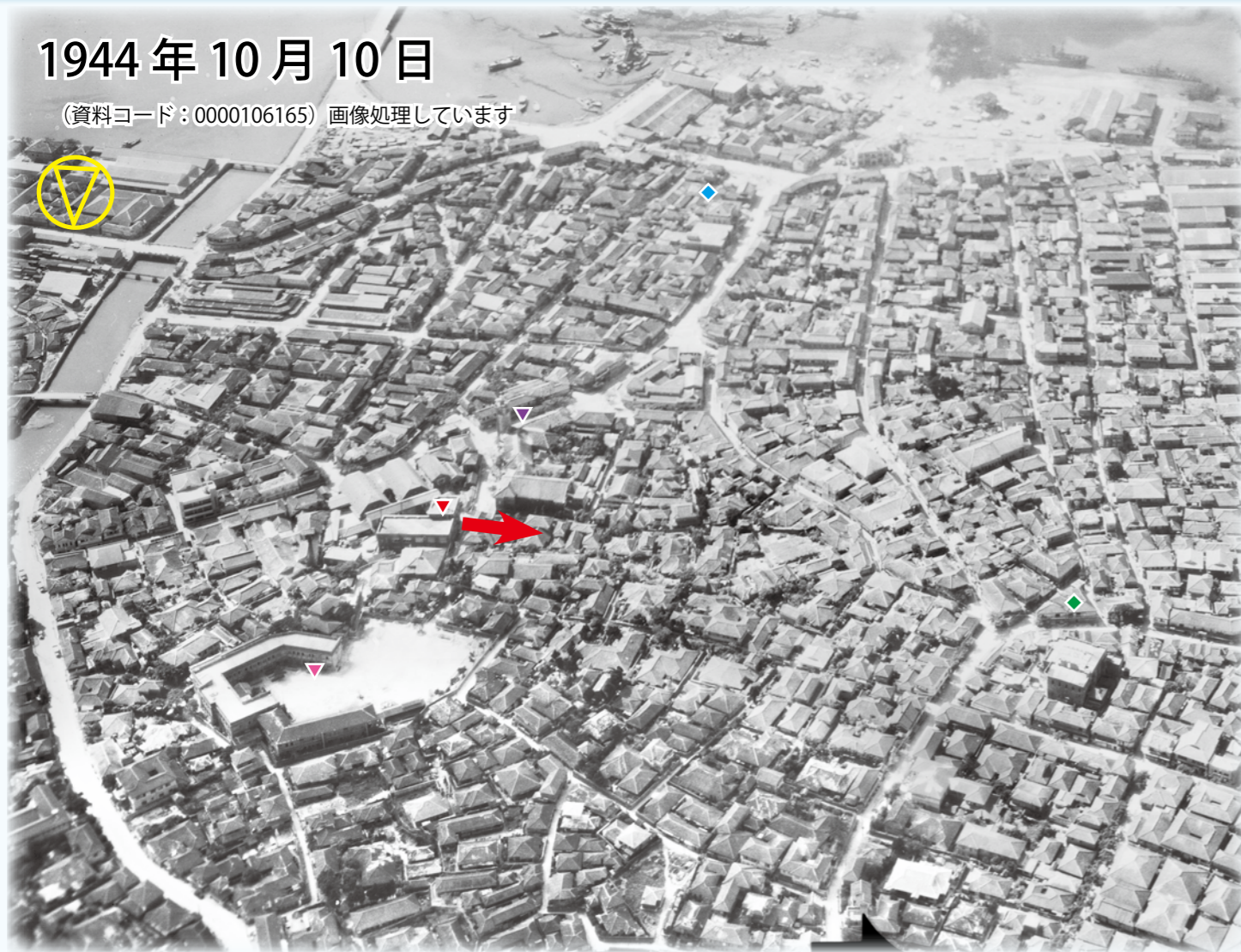
Q. どこでしょうか？



遠方には、左から▼先原崎の灯台付近、▼防波堤、◆新天地劇場⁽¹⁾がみえます。電話庁舎⁽²⁾（本リーフレット No. 21 参照）から撮影したと思われます。新天地劇場は、10・10 空襲の火災や米軍上陸後の激しい地上戦後もその姿を残し、ひとつの目印にもなります。この新天地劇場について、資料にはおよそ次のように書かれています。大正時代の中期に辻町で大火事が起こり、町の大半が焼けた。これらの瓦礫を集め、コンクリートで混ぜ、石門の墓地⁽³⁾の上に西洋館が建てられた。窓からは活動写真（映画）の楽隊（チンドン屋か）のクラリネットの音、珊瑚座（劇団）の太鼓が鳴り響いた。昭和の半ばにはくたびれかけて、役所から危険建物の貼り紙がはられた。とあります。激しい沖縄戦をくぐりぬけ、戦後もしばらく残っていたようです。

1944年10月10日

(資料コード：0000106165) 画像処理しています



表紙で示された◆新天地劇場付近を10・10空襲時の空中写真(1944年10月10日)からみてみます。新天地劇場は▼電話庁舎から赤矢印方向を撮影したものと推測されます。▼は天妃国民学校(現在の天妃小学校)、▼那覇市役所、◆勸銀支店・百四十七支店(1)になります。赤瓦屋根と思われる家屋が密集しており、那覇港付近は空襲によって黒煙がたちこめています。資料(2)には、午後三時半ごろ局舎(電話庁舎)が火に包まれた、とあります。



写真③ 前頁の写真を北西側からみた写真です。赤矢印が表紙の写真的撮影方向になります。左側より▼は天妃小学校、▼電話庁舎、▼那覇市役所、◆新天地劇場、◆勸銀支店・百四十七支店になります。新天地劇場の青矢印は、写真⑥と同じで、壁にあいた穴のようです。(1945年7月1日)(資料コード：0000256318)



写真④ 新天地劇場の東側にある階段。食堂の文字がみえます。(1945年6月11日)(写真番号：74-29-1)



写真⑤ 勸銀支店・百四十七支店の建物。(後に琉球銀行となる：写真⑨を参照)(1945年5月30日)(写真番号：72-35-1) ※写真を一部切り抜いています。



写真① 新天地劇場を南側からみています。写真を拡大すると建物の右側に写真④でみる階段がみえます。(1945年5月25日)(写真番号：114-19-2)



写真② 新天地劇場を北側からみています。青矢印は、写真⑥でみられる砲弾によってあいた壁の穴と思われる。(1945年5月29日)(写真番号：72-40-4)



写真⑥ 瓦礫で造ったという新天地劇場の北側の壁にあいた穴。(1945年6月)(写真番号：72-34-1)



写真⑦ 新天地劇場内側の壁穴から北側をみています。(1945年5月30日)(写真番号：74-33-1)



写真⑧ 東側からみた◆新天地劇場。戦後もしばらく残っていました。(1948-50年頃) (資料コード: 0000086412 【1123】)



写真⑨ ◆勧銀支店・百四十七支店のあとに琉球銀行ができます。写真はまだ工事中のようです。(1948年頃) (資料コード: 0000086415 【2116】)

前頁の矢印の位置を現在の標準地図（国土地理院）に落としてみました。地図上の矢印や▼・◆印は空中写真とほぼ同じ位置になります。戦後は碁盤目状に敷きならされて、◆新天地劇場や▼那覇市役所跡は位置の特定が難しくなります。

- 注 (1) 那覇市史 1979 『那覇の歴史民俗地図』
 (2) 琉球電信電話公社 1969 『沖縄の電信電話事業史』
 (3) 川平朝申 1966 『山河あり』

昔おきなわ風景探索 No. 22

発行日: 令和8年(2026)6月15日
 編集執筆: 当山昌直(1951年生)
 発行: (公財) 沖縄県文化芸術振興会 公文書管理課
 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川148-3 沖縄県公文書館内
 電話 (代表) 098-888-3875 FAX: 098-888-3879

沖縄県公文書館デジタルアーカイブ

アメリカ統治下にあった頃の写真や空中写真を公開しています。

